

## キルギス政治・経済レポート

# キルギス NOW

【第1号：2009年9～10月期】

\*本レポートはROTOBOの協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBOの組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

## 国内

### 行政改革

2009年9月、キルギス議会（ジョゴルク・ケナシ）年次会期開会式で、クルマンベク・バキエフ大統領は大規模行政改革の開始を発表した。

続いて大きな辞任が相次ぎ、イーゴリ・チュジノフ首相が職を去った。憲法と選挙法典に従い、議会で多数を占める政党が首相候補者を推薦した。この党は人民政党「アク・ジョル」で、バキエフ大統領が同党のリーダーを務める。これまでの大統領府長官だったダニヤル・ウセノフが新首相となった。大統領府は今回の改革により廃止され、それに替わって「大統領機構」が出現した。

政府構造も変わり、外務省が内閣の管轄より外された。国家安全保障委員会が国家安全保障局に改組され、同じく政府の構成から外された。今後、外務省や国家安全保障局などの国家特別局は大統領に直属することになる。

外務省のトップについては、その地位は外務担当国務相に高まった。大統領にはまた防衛・安全保障・法秩序問題担当国家補佐官がつくことになり、同補佐官は大統領機構のメンバーとなる。このポストは改編前の安全保障会議に替わり設置された。

さらに、政府は今後、予算編成業務をせず、本業務は、発展・投資・イノベーション中央庁にゆだねられる。大統領機構の構造的単位であるこの機関のトップには、大統領の末息子マクシム・バキエフが任命された。国家委員会は全て廃止され、代わりに7つ庁、5つの省が設置された。

行政改革は2段階で行われる。第1段階は新年までに完了予定、第2段階は行政区域の変更を予定しており、2010年3月までに完了する予定である。

## 対外関係

キルギスは債務を清算し、天然ガスの供給についてウズベキスタンと合意した。ビシケ

クはタシケントに 1,800 万ドルの負債があり、2009 年 9 月末、ウズベキスタンは未払いを理由にキルギス共和国南部へのガス供給を停止した。

しかし、ガス価格について双方は依然として合意に達することができず、ウズベキスタンは 1,000m<sup>3</sup> 当たり 195 ドルでガスを売り続けている。

ウズベキスタンはまた、キルギス南部の国境地帯へのロシア軍配置に断固反対している。ODKB（集団安全保障機構）の基地をさらにもう一つ開設することに関する秘密合意は、2009 年 7 月 31 日キルギスに於いて開催された非公式の CIS 諸国首脳サミットで達成されたものである。

9 月に ODKB 事務総長ニコライ・ボルジュガが同基地開設に関し公式に発表した。一方で、「反テロリズム連合」軍の兵士が駐留していた米国の航空基地「マナス」は、新たな協定により「トランジット輸送センター」という名称に変わった。協定の条件の一つは、「センター」に駐留する権利と権限を持つのは米国の軍人と文官だけだということである。このため、フランスとスペインの軍人たちは「センター」から去ることを余儀なくされた。

## 経済

### 多国間関係

キルギス共和国財務相補佐官アリヤ・ケリムバエワは、「政府は今後 3 年間で対外債務を GDP 比 55～57% から 45～47% へ削減し、内外のいかなる要因にも関係なくこの水準を維持する計画である」と言明した。

2005 年～2007 年にキルギスでは経済成長が見られたが、2007 年半ばより世界経済危機の影響で若干の低下が始まった。現在は国際的ドナーの支援のもと浮揚が始まっている。

これに関連してケリムバエワ補佐官が語ったところでは、政府は経済危機対策の実施を通じて 2009 年末までに GDP を 2,000 億ソムまで増やし、インフレ率を 4% まで下げる意向である。この結果、予算の赤字水準は上昇する可能性がある。また、同補佐官によれば、2009 年は海外出稼ぎ労働者の送金の減少により国家予算が減ったという。

### 上海協力機構の枠による貿易・経済関係発展

上海協力機構加盟諸国の中でキルギスの基本的戦略パートナーはロシアと中国である。ロシアはキルギスに 20 億ドルという前例のない財政援助を行った。9 月に第 1 回目の送金があった。

## 主要ドナー機関の支援

キルギスは世銀発表のビジネス環境調査レポート「Doing business 2010」で世界ランキング 41 位を占めた。

オシュ = バトケン = イスファン道路の改修のために欧州復興開発銀行 (EBRD) より 2,500 万ドルの融資が提供され、また EBRD との協力に関する覚書も調印された。EBRD はエネルギー部門のプロジェクト資金を提供する用意がある。キルギスの基本的ドナーとパートナーは依然としてアジア開発銀行 (ADB)、EBRD、世界銀行である。

ADB プロジェクト「イシク・クリの持続的発展」の枠で 3,000 万ドルがキルギスに提供される。ADB とキルギス財務省の間で融資・グラント協定が調印された。グラントとして 1,350 万ドル、特惠融資として 1,650 万ドルが供与される。キルギス共和国政府はこの案件に 700 万ドルの協調融資を行う。

キルギス共和国における ADB の代表は常設事務所のラン・ウー所長である。

今後、キルギスで投資誘致を担当する政府機関は「発展・投資・イノベーション中央庁」である。同庁の幹部は既に 4 件の案件を提出し、その中には社会的住宅の不動産担保ローンによる建設も含まれている。

## 信託

「無制限ムダラバ」契約によるイスラム信託の 2009 年 10 月期の収益率が算定された。「無制限ムダラバ」契約とは、銀行は同契約によって顧客から資金を集めるが、それは集めた資金をシャリア法によって許されているビジネスに投資して利益を上げるためであり、利益は契約に規定されている条件に基づき銀行と顧客の間で分配される、という契約である。

同信託の利率は、これを実施している同じ銀行（「エコバンク」）の伝統的預金の利率を上回ったばかりか、キルギスの主要商業銀行の伝統的預金の平均利率も上回った。

周知のように、「無制限ムダラバ」契約によるイスラム信託の収益率は、イスラム原理に基づいて融資された商業案件の収益によって決定する。従来 of 預金と比較するために、イスラム信託の収益率は年利に換算された。なお、「無制限ムダラバ」契約による定期イスラム信託の受付は 2008 年 8 月から実施されている。

## 二国間関係

モルドヴァがキルギスにワインの原料であるぶどう粗留アルコールを供給する。キルギスではこれを国内工場で加工し、市場へ発泡ワインとして出荷する。モルドヴァ側はまた、共和国南部のノオカト地区にタバコ葉加工の合弁企業を対等の条件で設立することを提案している。しかし、これには困難が伴う。というのはソビエト時代、キルギスは年間 13 万 t、ソ連全体のタバコ葉のほぼ 40%を生産していたが、現在、生産量は激減している。

カンバラタ第 1 水力発電所建設のため、ロシアとの合弁企業が設立された。ロシアの分担金は 17 億ドル。キルギスはロシアの財政支援枠でこの出資を受けた。キルギスはロシアからさらに 3 億ドルの融資と 1 億 5,000 万ドルのグラントを受けた。

## 投資政策/金融市場

キルギスの国営大工業施設はすべて民営化されることになり、キルギスは投資を希望する外国企業の参入を歓迎する。売却の対象外は、発電所、キルギス全国送電線網、鉄道、国際空港「マナス」などの戦略的企業だけである。

カザフスタンの獣医学専門家がキルギスの畜産経営に関心を示し、家畜に病気がないかどうか畜産場の点検を開始した。国家獣医学局のバイウイムベット・ムラタリエフ総局長によると、キルギスの獣医学専門家はカザフスタンの専門家とタラス州で肉と生畜の検査を全面的に行った。チュイ州とナリン州でも同様の検査が予定されている。

カザフスタンの獣医学専門家は、酪農と食肉生産関係の全ての企業・農場を訪問し、主として家畜の血液検査を実施する。11 月の半ばには検査の結果を発表する予定である。カザフスタンがキルギス産食肉と肉製品の輸入禁止解除を公式に発表する可能性がある。

## エネルギー・セクター

### 新電力料金を制定

2009 年 12 月 1 日より電力料金の引き上げが行なわれる。1kW 時当たりの料金は 4.5 セント（1ソム）となる。

### 「電力産業法」を策定中

新法律が目指すものは電力料金の値上げである。更に、キルギスは綿畑灌漑用にウズベキスタンへ販売する水料金の設定を計画しているが、ウズベキスタンは断固反対している。